

〈書 評〉

IA Kapandji 著

荻島秀男 監訳

カンパンディ

関節の生理学 I・II・III (全3巻)

明石 謙 (川崎医科大学教授)

Kapandji の“関節の生理学”は大変面白い本である。この本の英語版は私も早くから手に入れており何かと参考にしてきたが、少し読みづらいところがあり、どうしても挿し絵を主に見てしまうようになる。その点、読み易い日本語訳ができたことは喜ばしい。

本はI巻 上肢、II巻 下肢、III巻 体幹・脊柱となっており、いずれもはっきりとした線画の挿し絵が右のページ、左のページは文字による説明があり、文章の説明が挿し絵だったり、絵の説明が文章だったりする。

監訳者の荻島氏は序文でKapandjiについて詳しく説明をしているがこれが興味深い。

さて少し内容について述べるとしよう。本のページを繰っていくと次々と目を見はるような立体的

な模式図が嫌でも目にはいるようになっていく。橈骨をクランクに例えたり、尺骨頭を棒に取り付けた円錐に置き換えるなどは大変よく考えられた例であろう。

しかし著者も指のあたりから下肢については未だそのたくましい想像力が実を結んでいないらしく常識的な挿し絵となってくる。しかしどちらかというと頭の固い私にはこの方が安心して見ておれるという利点もある。始めから終までびっくりしっぱなしであれば多分疲れることであろう。

運動学に興味を持っている者の一人として内容を詳しく検討すると独断的な所もあり、これを全部そのまま信じてしまうことには問題がある。荻島氏も序文の中で述べているように自分の経験と照らし合わせたり、今もっている基本

的な知識の補いをしたり、さらに著者と議論をするつもりで自分で文献を探したり、実験をしながらこの本を参考にすればきっと楽しいものとなるであろう。

話は変わるが、親戚に一流大学の学生がいた。その勉強部屋へ行ってみると大きな本棚一杯に漫画の本が入っていた。漫画については同じ様な事が私の子供達にも起こっており、良し悪しは別としてもう一つの文化として社会に根づいていることは否定できないように思える。従ってこのような形の本が今後は大いに参考にされるのかも知れない。そう思って周りを見れば、Caillietの著書も大いにその傾向があり、日本語訳は荻島氏である。この方面にいち早く気が付き実績を重ねている氏に尊敬の念を禁じ得ない。

(I・上肢、A4変形、頁284、¥5,000、II・下肢、A4変形、頁214、¥4,500、III・体幹・脊柱、A4変形、頁244、¥5,000、全3巻セット特別定価13,000円、医歯薬出版刊)